

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 せん孔細菌病
3. 試験内容
- (1)実施場所 笹館 (2)実施農家 増田 剛
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 もも 品種 川中島白桃
- 樹 齢 10年 栽植密度 8 m × 8 m^{15.625} 本/10a
- 開 花 日 4月20日 収穫始め 8月26日
- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月28日	クプロシールド	1,000	350 ^{リットル}				
	クレフノン	100	350 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

昨年に比べて若干出たがそれでも少ない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 良好

実用性 あり

使いやすさ 炭酸カルシウムとの混用が手間

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 せん孔細菌病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 河越 一之
- (3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 清野 直人
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島
- 樹 齢 15年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4月19日 収穫始め 8月23日
- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当	散布日	薬剤名	倍数	10a当
5月11日	クプロシールド	1,000	500 ^{リットル}				
5月11日	クレフノン	100	500 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

被害割合が5%程度であった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	5	4	4

(2)評価の理由

散布効果 良好

実用性 あり

使いやすさ 薬害対策として炭カルとの混用が手間

(3)その他特記事項

全般的に多い年であったが、試験圃場では十分効果あった。

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシクイガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 原ヶ平 (2)実施農家 小林 範芳
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 あかつき、川中島
- 樹 齢 8年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 川中島4/20 あかつき4/17 収穫始め 8月20日
- (6)試験構成
- 試験面積 10 a (試験区 5 a 対照区 5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当	散布日	薬剤名	倍数	10a当
6月20日	オリオン水和剤	1,000	400 ^{リットル}	6月20日	ダズバンDF	3,000	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシクイガ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

ダズバンなくなるので選択肢増やすにいいのでは。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等

実用性 対象区と同等

使いやすさ 対象区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシンクイガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 大鰐唐牛古館 (2)実施農家 小竹 重喜
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 北山 銀之将
- (5)概要
- 作物名 桃 品 種 あかつき、川中島白桃
- 樹 齢 25～30 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 あかつき4/21 川中島白桃4/25 収穫始め あかつき8/10、川中島白桃8/26
- (6)試験構成
試験面積 15 a (試験区 7 a 対照区 8 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当	散布日	薬剤名	倍数	10a当
6月17日	マイコシールド	2,000	400 ^{リットル}	6月17日	マイコシールド	2,000	400 ^{リットル}
6月17日	チオノックF	500	400 ^{リットル}	6月17日	チオノックF	500	400 ^{リットル}
6月17日	オリオン水和剤	1,000	400 ^{リットル}	6月17日	ダーズバンDF	3,000	400 ^{リットル}

8

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と変わりなく防除できていたので価格の安いほうを使用したい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等

実用性 対象区と同等

使いやすさ 対象農薬と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黒星病・せん孔細菌病・果実赤点病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 河越 一之
- (3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 清野 直人
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島
- 樹 齢 15年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4月19日 収穫始め 8月23日
- (6)試験構成
試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当	散布日	薬剤名	倍数	10a当
5月18日	ペンコゼブ(水)	600	500 ^{リットル}	5月18日	チオノックF	500	500 ^{リットル}
5月18日	スターナ(水)	1,000	500 ^{リットル}	5月18日	スターナ(水)	1,000	500 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

特に差はなし

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

差は無かったが、選択肢としてはあってもいいのかも

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黒星病、せん孔細菌病、果実赤点病
3. 試験内容
- (1)実施場所 笹館 (2)実施農家 増田 剛
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 もも 品 種 川中島
- 樹 齢 10年 栽植密度 8 m × 8 m ^{15.625} 本/10a
- 開花日 4月20日 収穫始め 8月26日
- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当	散布日	薬剤名	倍数	10a当
5月10日	ペンコゼブ水和剤	600	350 ^{リットル}	5月10日	チオノックF	500	350 ^{リットル}
	スターナ水和剤	1,000	350 ^{リットル}		スターナ水和剤	1,000	350 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 べと病
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町俵舂 (2)実施農家 木村 隆志
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 鳴海 清志郎
- (5)概要
- 作物名 ぶどう 品 種 シャインマスカット
- 樹 齢 9年 栽植密度 4 m × 20 m 12.5 本/10a
- 開 花 日 6月12日 収穫始め 9月7日
- (6)試験構成
- 試験面積 10 a (試験区 5 a 対照区 5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月21日	オロンディスウルトラSC	2,000	250 ^{リットル}	8月21日	レーバスフロアブル	2,000	250 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
べと病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

今年は散布前からべと病の発生はなく比較しづらい年だったが、去年の効果を見れば今後も使用したいと思う。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等。

実用性 対照区と同等。

使いやすさ 対照区と同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 べと病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市高屋 (2)実施農家 齊藤 弘昭
- (3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 葛西 隆芳
- (5)概要
- 作物名 ぶどう 品 種 スチューベン
- 樹 齢 31年 栽植密度 3 m × 2.5 m 本/10a
- 開 花 日 6月12日 収穫始め 9月30日
- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月15日	オロンディスウルトラSC	2,000	300 ^{リットル}	8月15日	ナリアWDG	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
べと病	無	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

来年からすぐにでも使用したい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 対照区と同等

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項